

知らないまままで終わらせたくない ～安全で運動しやすいリハビリシユーズ～

洛和会音羽リハビリテーション病院 リハビリテーション部
川添拓海

はじめに

- ▶ 転倒リスクの高い・運動に適していない靴で入院されている方がいる。
- ▶ 運動に適している靴を購入できる事を知らずに、そのままの靴で退院される方が多い。
- ▶ ウェルネット（福祉用具業者）、義肢装具士と協力しリハビリスタッフが運動に適した靴をカタログ内の購入できる靴の中から厳選。
- ▶ 回復期病棟へ患者さんが転院後、リハビリスタッフが評価し、必要であれば厳選した靴を紙面の資料を提示し推奨する。

病棟でよくみられる靴



- ・踵が抜ける
- ・外反母趾、内反小趾になりやすい



- ・サイズ調整できない
- ・脱臼リスク



- ・柔らかすぎる
- ・脱げやすい

リハビリスタッフ（回復期病棟）の選定基準

- ▶ 着脱しやすい、させやすい（本人と介助者）
- ▶ サイズ調整がしやすい（前屈しない、脱げにくい、浮腫に対応可能）
- ▶ 踵がしっかりしている（踵を踏まない）
- ▶ 軽い
- ▶ サイズが多い
- ▶ 外出したくなるようなデザインの靴

作成者側（義肢装具士）の選定基準

●ヒールカウンターが硬い

▶ 静的・動的安定性に大きく影響するため

①

かかとの横部分が
しっかりと硬め



●ひも・マジックバンドによる調整機構がある

▶ 安定性や皮膚トラブルに影響するため

②

ひも・マジックバンドで
調整可能



●サイズは荷重時に5～10mm余裕がある

▶ 非荷重・荷重時で足長が変わるため

③

体重をかけた状態で
5～10mmの余裕がある



●MTP関節部分で曲がる

▶ ロッカー機能に影響するため

④

指の付け根で曲がる



●インソールが取り外せる

▶ 衛生面・調整性に影響するため

⑤

中敷きが取り外せる



●靴底は硬すぎず・柔らかすぎない

▶ ロッカー機能に影響するため

⑥

靴底（ミッドソール・アウトソール）は
硬すぎず・柔らかすぎない



効果判定

- ▶ **義肢装具士の靴の選定基準を共有したことにより、患者さんに対する評価の幅が広がり当院セラピストの質の向上に繋がった。**

今後の展開

- ▶ セラピストの選定基準 + 義肢装具士の選定基準を基に、加
点方式で靴を5種類程度に厳選
- ▶ 作成した資料を試験的に1カ月程度活用
- ▶ イメージしにくい説明文や、患者さんからの意見を取り入
れ資料を修正
- ▶ 今年までに資料を完成させ活用していく